

1 くがにくとぅば[黄金言葉] vol.220

## 沖縄をエンターテインメント総合ハブに

沖縄ラフ&ピース専門学校 校長 竹田 和夫

5 地域リレーションシップ情報 213

## 沖縄総合事務局経済産業部の最近の取組について

## 消費税のインボイス制度開始に向けた準備について

8 おきぎんマーケティングレポート

## おきぎん賃料動向ネットワーク調査(2021年)

20 沖縄県内市町村における住宅着工の動向分析

34 けいざい風水

36 おきぎんカトレアクラブ通信

38 県内景況・確報

2022年4月の県内景況

46 国内景気動向

48 沖縄マーケティング情報

①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数

②世界の中の沖縄(年次)

③グラフでみる沖縄経済

④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)

68 経済社会のできごと(沖縄、国内・海外)

2022年5月



表紙写真/パイナップル

## 沖縄をエンターテインメント総合ハブに



沖縄ラフ&ピース専門学校

校長 竹田 和夫



今回は、エンターテインメント分野を総合的に学ぶことができる県内唯一の学校であり、国内外へ広くエンターテインメントを発信する吉本興業グループの専門学校である学校法人 沖縄ラフ&ピース専門学校の竹田校長に沖縄での設立の経緯や人材育成などについてお話を伺いました。

### 沖縄に専門学校を設立した理由

もともと吉本興業には学校を作る事業を取り扱う部門があります。NSCなどはダウンタウンが1期生だったりして聞いたことがある方もいるかもしれません。そこは裏方さんの仕事であったり、スタッフさん、作家さんなどお笑いの周辺になるエンターテインメントの部分教えようというスクール事業でした。

しかし、その中で沖縄だけが唯一違って、文科省に学校法人の認可を受けています。何故かという、沖縄県がエンターテインメント総合ハブに一番適している地域だと考えているからです。吉本興業は国内に留まらず、海外へもエンタメを発信していて、アジア諸国に最も近い沖縄が拠点として適しています。



もう一つの理由として、ご存知かとは思いますが、2009年から映画祭を開催しております。その中で映画祭として集客イベントが出来るのであれば、会社としての収支は別にして、経済活動として産業化出来るのではないか、産業化出来るのならば、それを作る人、演じる人は沖縄から送り出す必要があるだろうというもので

す。そして、その人材を育成する学校が必要だろうという流れです。映画祭も県外でのPRなどを除けば、ほとんど沖縄の企業と一緒にやっています。そうしなければ沖縄でやる意味がないと思っています。

これは、会長（※吉本興業ホールディングス代表取締役会長：大崎 洋氏）の沖縄愛にも裏打ちされています。第100回まで続ける構想です。



### どんな学校で、何を学ぶのか

現在は前年度から開始した高等課程の生徒も含めて総勢128名の生徒がここで学んでいます。

学科については、パフォーマンスアーツ学科とクリエイティブ学科がありましてその中に細分化されたコースがあります。学科は2つで変わらないのですが、コースは受験生や在校生のニーズに合わせて毎年増減しています。最初は固定されていたのですが、ここで学ぶうちに生

徒たちから細分化して深く学びたいというニーズが出てくるようになりました。その場合、コースという形にしないと講師も呼べず、専門的なサポート体制を作ってあげられないのでこのような形をとっています。



本校は「やりたいことを、とことんやりたいだけやる」をモットーにしています。そのために提供できるものはコースや講師、機材など全て提供しています。そしてそれを基に成長し、いつか職業になってくれればいいですね。

講師も基本プロしか呼びません。その中でも一流の人を呼んでいます。特に、実技系の分野は、生徒たちが“こうなりたいな”と思えるレベルの高い人でないとダメだと思っています。



## 生徒たちの活躍や進路について

卒業後については、途中で目指すものが変わる子もいますが、基本的にはもともと目指してきた道に進んでいく学生が多いですね。当然、就職活動なのですべてがうまくいくわけではありません。ただ、本校は入試がないのが特徴で、もともと高い技術を持った学生はほとんどいません。皆専門的な技能はほとんどゼロで入って

きます。そのような生徒たちがゼロから2年で大きく成長した伸び代を見ているので、内心「採用した方がお得なのに(笑)」と思っています。

伸びるという点では、ここには様々なチャンスがあります。先ほどの講師陣もそうですが、特に最近は、映画や演劇をはじめとする様々なキャスト募集が多く来ます。また、クリエイティブ系でも生徒の希望があればインターシップ的にいろいろな現場に行かせることができますし、このような他ではできない経験は本校ならではだと思えます。そこでの繋がりが将来的に就職に活かされることも多々あります。

## “居場所”としての学校

本校の一階は学校食堂なのですが、営業許可も取り、地域の子供たちをはじめとする一般の方々にも開放しています。そこで社会福祉協議会などから提供していただいた食材で料理を作って、足を運んでくれる子供たちに食べてもらうなど子ども食堂的な活動もしています。最近はコロナの影響で難しいですが、コロナ前は地域の子供たちも交えて、ここで発表会やクリスマス会などのイベントをしていました。会長のイメージとしては一階の子供食堂の上に専門学校が乗っているという感じのようです。



ここは学校ですが、“居場所”でもありたいと思っています。地域の子供たちに足を運んでももらうこともそうですが、人材育成についてもそうです。どのように生徒を育てるかとかどのように学校が儲かるかなどではなく、エンターテインメントを土壌にして子供たちが育っていく居場所を作りたいという想いが基本です。将来的にエンターテインメントを職業として見てくれたら一番嬉しいですね。

昨年度から開校している高等課程も根本にある想いは同じです。中学を卒業して、高校に行けない、あるいは、行きたくない、でも、芸事や好きなことならちょっと頑張ることができるかもしれない。そのような想いを持っている子たちに来てほしいと思っています。

#### ラフビーならではの高等課程の魅力

- 1 大好きを通して成長できる!
- 2 自分らしさを伸ばせる学校生活。
- 3 文部科学省認定の高等課程だから、  
大学・短大・専門学校への入学資格が付与されます。
- 4 15歳からデビューを目指せる!
- 5 高校からの転入・編入が可能。  
不登校の方もリスタートできます。

#### 今後の展開について

吉本興業グループは自社でBS放送局を持っていて、様々な番組を発信しているのですが、それを発展させて日本製の動画プラットフォームを作りたいと考えています。今あるNetflixなどの動画プラットフォームはほぼ外国製で、日本のいろいろな動画を自由に配信ベースに乗せることが出来ません。

吉本興業グループは、地域創生みたいな事業が好きで、47都道府県や一部海外に吉本興業所属の芸人が住んでいて、各地域に根差したタレント活動をしています。将来的には、彼らが自社プラットフォームを通して地域の魅力を発信する、それが全国で行われて、日本中が盛り上がる。そのような姿を目指しています。

そして、沖縄はその中心になることは間違いないと思います。沖縄には、ここ沖縄ラフ&ピース専門学校や吉本興業沖縄事務所、今は休業していますが沖縄花月の3つの拠点があり、他の都道府県にはない発信力を持っています。ちなみに、まだ大々的に公表していませんが離島に次の学校を立ち上げる計画もあります。最初にお話したように沖縄をエンターテインメント総合ハブとしてさらに発展させたいと考えています。

#### 正攻法に勝るものなし

私は吉本興業の会長から声がかかって、今この仕事をしていますが、それまでは全国にある様々な少年院で働いていました。その中の浪速少年院というところで働いていた時に、「非行少年たちはコミュニケーション能力が不足している。だから人の話を聞かないし、人に伝えることが出来ない。そして結局失敗して非行に走る。話芸のプロである吉本の芸人に講師に来てもらったら勉強になるのではないか。」と当時の同僚が、会長と同じ高校の出身だった私にしつこく言うので、面識もないまま連絡を取ったら快く引き受けてくれたのが始まりです。そして、講師に中田カウス師匠を連れてきてくれたのですが、師匠が90分間話すのをいつも反抗的な少年たちが微動だにせず聞き入る姿を見てエンターテインメントの力を強く感じました。その後、体調の問題もあり、その仕事を退職する際に会長からお声掛けいただいて今に至ります。

ずっと人間相手の仕事をしてきて、嘘やご機嫌取りは通じないことは分かりましたので、正攻法で正面から向き合うことを大切にしています。例えば、生徒に歌や演奏の感想を聞かれることがあるのですが、「無理だろうな、売れないな」と思ったら「ええんちゃうか」とは絶対に言いません。この場合の正攻法は、学んだことを注入させて、考えさせることだと思っています。授業で発声練習やボイストレーニングもさせているわけですから、勉強したことを活かさないかと。自分の思ったことと生徒に必要なことをありのままに伝えています。



- 声優・俳優コース
- ヴォーカリストコース
- ダンサー・パフォーマーコース
- アイドル・タレントコース

**PERFORMER**

- ライブ・イベント制作コース
- 音響テクノロジーコース
- 映像コース
- スーパーマネージメントコース
- 総合エンターテインメントコース

**PRODUCTION**

- マンガコース
- イラスト・キャラクターデザインコース

**MANGA**

- ゲームグラフィックスコース
- アニメーション3DCGコース
- 企画・演出・シナリオコース

**CG-ANIMATION**

あそび  
**この体験が、**

“吉本興業”  
だからできる

在学中の  
業界デビュー  
実績多数

2023年度  
入学生募集!!!

あした  
**未来を作る!**



沖縄ラフ＆ピース専門学校  
LAUGH & PEACE ENTERTAINMENT SCHOOL OKINAWA



HP



業界デビュー実績

沖縄ラフ＆ピース専門学校(沖縄県那覇市松尾2-1-29) TEL:0120-787-847(フリーダイヤル)

本校は反社会的勢力排除に全力で取り組みます。  
「反社会的勢力排除宣言」



# 沖縄県内市町村における住宅着工の動向分析

おきぎん経済研究所 研究員 與那覇 徹也

## [分析概要]

- 国土交通省より毎月発表される「**建築着工統計調査**」は、建築物の着工動態を明らかにするものであり、基幹統計として国及び地方公共団体等の施策や動態分析の基礎資料として広く用いられている。
- 一方、2020年4月分からは調査計画の変更に伴い、**一部データについて“市区町村別の集計結果の公表とりやめ”**となったことから、これまで得られていた市区町村における住宅着工動態の詳細な把握が困難となった。
- そこで(株)おきぎん経済研究所では、(独)統計センターによる統計調査の「**オーダーメイド集計**」を利用し、非公表とされる一部データ(2020年度における市区町村ごとの住宅着工戸数等)について入手し分析を行った。
- 入手データを広く社会に還元することにより、各地方公共団体や関連事業者・団体等の参考の一助としたい。

## 1. 県内市町村における新設住宅着工戸数の動向

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
沖縄県計	16,488	16,985	16,197	14,243	10,335	9,315
市部計	12,631	13,220	12,999	10,855	7,642	6,764
那覇市	3,387	3,962	2,897	2,880	1,905	1,644
宜野湾市	1,385	1,066	1,039	716	627	413
石垣市	923	682	867	712	559	484
浦添市	1,339	1,180	1,125	759	819	528
名護市	514	755	1,104	965	494	499
糸満市	716	614	725	455	462	385
沖縄市	1,465	1,515	1,296	887	753	975
豊見城市	627	924	624	676	238	346
うるま市	1,317	967	1,058	963	681	804
宮古島市	523	1,169	1,812	1,473	750	271
南城市	435	386	452	369	354	415
郡部計	3,857	3,765	3,198	3,388	2,693	2,551
国頭村	20	19	37	9	21	
大宜味村	37	9	40	10	11	
東村	3	21	10	7	23	
今帰仁村	102	118	122	98	49	
本部町	186	188	170	423	83	
恩納村	88	217	188	282	236	
宜野座村	69	89	66	118	77	
金武町	128	109	129	208	67	
伊江村	28	24	38	31	35	
読谷村	364	415	305	456	312	
嘉手納町	86	79	34	92	88	
北谷町	525	255	287	310	269	
北中城村	384	361	241	134	75	
中城村	291	349	193	264	247	
西原町	374	398	258	217	247	
与那原町	266	133	200	112	145	
南風原町	603	630	546	303	249	
渡嘉敷村	6	9	4	0	2	
座間味村	4	15	14	2	6	
粟国村	1	0	1	0	1	
渡名喜村	0	0	0	0	0	
南大東村	1	0	0	12	2	
北大東村	6	4	0	1	11	
伊平屋村	0	0	0	0	0	
伊是名村	1	0	5	3	0	
久米島町	23	6	19	25	4	
八重瀬町	240	273	249	212	351	
多良間村	4	0	2	1	5	
竹富町	13	31	4	45	60	
与那国町	4	13	36	13	17	

⇒ (色付きセル)  
:「公表とりやめ」となったデータ

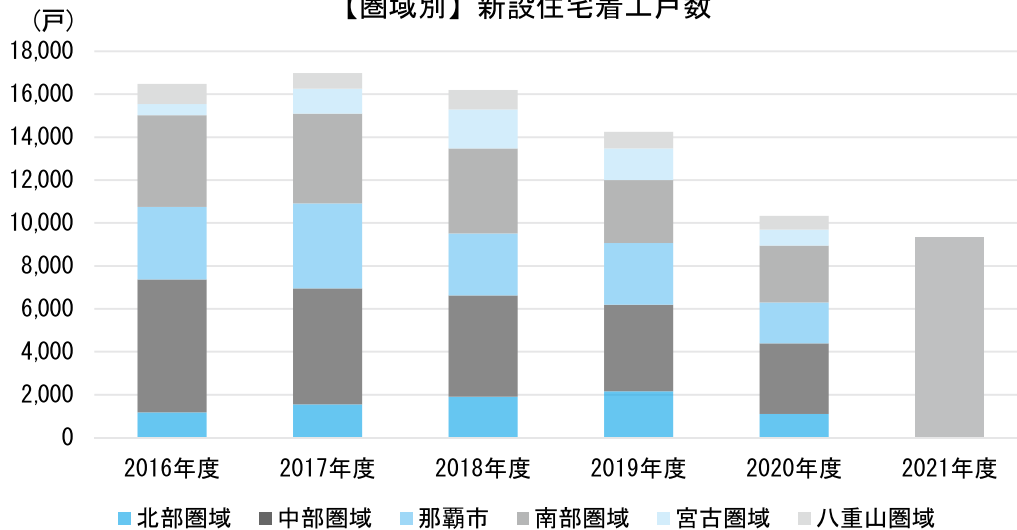
⇒ (色付き二重罫線セル)  
:「公表とりやめ」となったデータのうち、  
「オーダーメイド集計」によって入手したデータ

※2021年度データの「オーダーメイド集計」提供は、  
今年度(2022)内を予定。詳細な時期は現時点で不明

### ※出所※

本レポートにおける統計表等は、「建築着工統計調査」(国土交通省)ならびに、統計法に基づいて、独立行政法人統計センターから「建築着工統計調査」(国土交通省)のオーダーメイド集計により提供を受けた統計成果物を基に作成している。

【圏域別】新設住宅着工戸数



	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
北部圏域	1,176	1,549	1,909	2,154	1,096	-
中部圏域	6,191	5,405	4,711	4,039	3,299	-
那覇市	3,387	3,962	2,897	2,880	1,905	-
南部圏域	4,267	4,174	3,959	2,926	2,644	-
宮古圏域	527	1,169	1,814	1,474	755	-
八重山圏域	940	726	907	770	636	-
計	16,488	16,985	16,197	14,243	10,335	9,315

※2021年度は町村別が非公開のため県計のみ表示。

※北部圏域：名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村

中部圏域：宜野湾市、沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町

南部圏域：浦添市、糸満市、豊見城市、南城市、与那原町、南風原町、渡嘉敷村、座間味村、粟国村、渡名喜村、南大東村、北大東村、久米島町、八重瀬町

宮古圏域：宮古島市、多良間村

八重山圏域：石垣市、竹富町、与那国町（以降表同様）

沖縄県内の新設住宅着工戸数（年度計）は、2017年度をピークに4年連続の減少となっており、2021年度は9,315戸（前年度比9.9%減）と、1973年の統計開始以来最も低い水準となった。1万戸を下回ったのは、2007年度以来2度目であり、その要因については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う景気悪化の影響や建築費高騰などが推察される。

2021年度の着工戸数を市部別にみると、宮古島市において479戸の減少、次いで那覇市で261戸の減少となっている。一方、沖縄市では222戸の増加、うるま市では123戸の増加となっている（前頁表参照）。

郡部については、前述のとおり2020年度からの着工戸数が非公開となっており、各町村における数値の把握が困難となっている。そこで今回、(独)統計センターの「オーダーメイド集計」によって得た2020年度の地域別のデータを見てみると、郡部のうち平均的に着工戸数が多い南風原町や読谷村、北谷町などをはじめ多くの地域で減少の動きがみられる。また、2020年度の前年比で見ると、特に本部町において減少幅が大きいことが分かる（423戸→83戸：340戸の減少）。

2021年度の郡部については、合計で前年度比142戸の減少となっているが、その内訳については、本レポート作成時点においては非公開となっている。データを得るには今回と同様「オーダーメイド集計」等の統計データの二次利用制度などを活用する必要があるものの、その提供開始時期は2022年度内の予定となっている。

## 2. 利用関係別にみる新設住宅着工戸数の動向

利用関係別	2019年度	2020年度	2021年度	
沖縄県計	計	14,243	10,335	9,315
	持家	2,785	2,329	2,897
	貸家	8,583	5,445	3,967
	給与住宅	190	426	194
	分譲住宅	2,685	2,135	2,257
市部計	計	10,855	7,642	6,764
	持家	1,836	1,606	1,960
	貸家	6,712	4,218	2,917
	給与住宅	163	298	171
	分譲住宅	2,144	1,520	1,716
那覇市	計	2,880	1,905	1,644
	持家	323	229	229
	貸家	1,930	1,308	1,162
	給与住宅	0	67	0
	分譲住宅	627	301	253
宜野湾市	計	716	627	413
	持家	130	122	139
	貸家	470	344	195
	給与住宅	3	56	0
	分譲住宅	113	105	79
石垣市	計	712	559	484
	持家	99	84	125
	貸家	562	321	157
	給与住宅	11	82	150
	分譲住宅	40	72	52
浦添市	計	759	819	528
	持家	104	135	138
	貸家	436	498	249
	給与住宅	2	0	0
	分譲住宅	217	186	141
名護市	計	965	494	499
	持家	180	142	167
	貸家	649	234	81
	給与住宅	3	0	1
	分譲住宅	133	118	250
糸満市	計	455	462	385
	持家	150	131	180
	貸家	195	203	116
	給与住宅	0	0	0
	分譲住宅	110	128	89
沖縄市	計	887	753	975
	持家	213	178	252
	貸家	445	369	336
	給与住宅	3	0	1
	分譲住宅	226	206	386
豊見城市	計	676	238	346
	持家	100	103	118
	貸家	317	52	175
	給与住宅	0	0	9
	分譲住宅	259	83	44
うるま市	計	963	681	804
	持家	318	259	340
	貸家	421	256	270
	給与住宅	0	5	0
	分譲住宅	224	161	194
宮古島市	計	1,473	750	271
	持家	71	64	91
	貸家	1,225	570	79
	給与住宅	141	88	4
	分譲住宅	36	28	97
南城市	計	369	354	415
	持家	148	159	181
	貸家	62	63	97
	給与住宅	0	0	6
	分譲住宅	159	132	131

⇒(色付きセル)  
:「公表とりやめ」となったデータ

⇒(色付き二重線セル)  
:「公表とりやめ」となったデータのうち、  
「オーダーメード集計」によって入手したデータ

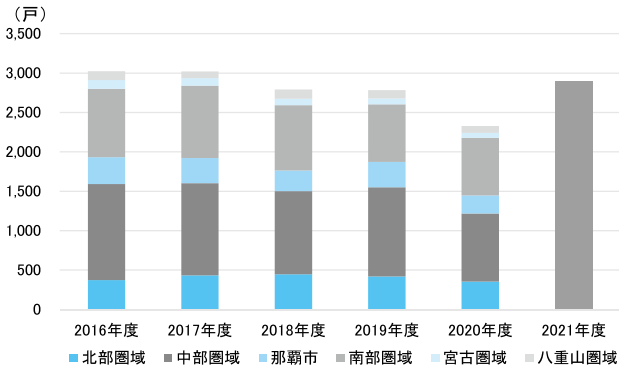
※2021年度データの「オーダーメード集計」提供は、  
今年度(2022)内を予定。詳細な時期は現時点で不明

利用関係別	2019年度	2020年度	2021年度	
郡部計	計	3,388	2,693	2,551
	持家	949	723	937
	貸家	1,871	1,227	1,050
	給与住宅	27	128	23
	分譲住宅	541	615	541
国頭村	計	9	21	
	持家	9	8	
	貸家	0	12	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	1	
大宜味村	計	10	11	
	持家	10	11	
	貸家	0	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
東村	計	7	23	
	持家	2	5	
	貸家	4	18	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	1	0	
今帰仁村	計	98	49	
	持家	50	35	
	貸家	44	12	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	4	2	
本部町	計	423	83	
	持家	55	44	
	貸家	362	37	
	給与住宅	1	0	
	分譲住宅	5	2	
恩納村	計	282	236	
	持家	37	41	
	貸家	212	93	
	給与住宅	0	94	
	分譲住宅	33	8	
宜野座村	計	118	77	
	持家	25	22	
	貸家	90	51	
	給与住宅	1	1	
	分譲住宅	2	3	
金武町	計	208	67	
	持家	41	38	
	貸家	68	23	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	99	6	
伊江村	計	31	35	
	持家	11	8	
	貸家	20	26	
	給与住宅	0	1	
	分譲住宅	0	0	
読谷村	計	456	312	
	持家	171	93	
	貸家	269	151	
	給与住宅	0	1	
	分譲住宅	16	67	
嘉手納町	計	92	88	
	持家	30	14	
	貸家	61	71	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	1	3	
北谷町	計	310	269	
	持家	51	30	
	貸家	145	59	
	給与住宅	0	3	
	分譲住宅	114	177	
北中城村	計	134	75	
	持家	41	35	
	貸家	50	13	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	43	27	
中城村	計	264	247	
	持家	82	63	
	貸家	154	134	
	給与住宅	1	0	
	分譲住宅	27	50	
西原町	計	217	247	
	持家	94	69	
	貸家	62	103	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	61	75	

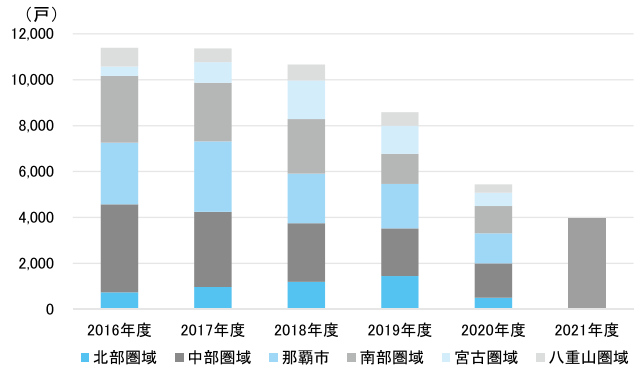
利用関係別	2019年度	2020年度	2021年度	
与那原町	計	112	145	
	持家	25	24	
	貸家	63	100	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	24	21	
南風原町	計	303	249	
	持家	82	75	
	貸家	177	152	
	給与住宅	0	2	
	分譲住宅	44	20	
渡嘉敷村	計	0	2	
	持家	0	2	
	貸家	0	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
座間味村	計	2	6	
	持家	2	4	
	貸家	0	2	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
栗国村	計	0	1	
	持家	0	1	
	貸家	0	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
渡名喜村	計	0	0	
	持家	0	0	
	貸家	0	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
南大東村	計	12	2	
	持家	0	0	
	貸家	12	2	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
北大東村	計	1	11	
	持家	1	0	
	貸家	0	11	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
伊平屋村	計	0	0	
	持家	0	0	
	貸家	0	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
伊是名村	計	3	0	
	持家	0	0	
	貸家	3	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
久米島町	計	25	4	
	持家	7	4	
	貸家	18	0	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	
八重瀬町	計	212	351	
	持家	113	94	
	貸家	32	104	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	67	153	
多良間村	計	1	5	
	持家	1	0	
	貸家	0	4	
	給与住宅	0	1	
	分譲住宅	0	0	
竹富町	計	45	60	
	持家	9	3	
	貸家	12	32	
	給与住宅	24	25	
	分譲住宅	0	0	
与那国町	計	13	17	
	持家	0	0	
	貸家	13	17	
	給与住宅	0	0	
	分譲住宅	0	0	



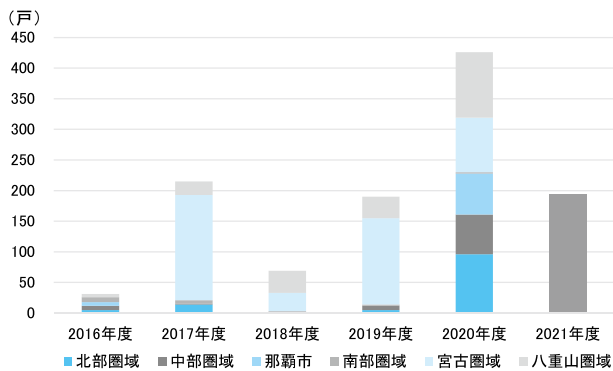
【持家】圏域別新設住宅着工戸数



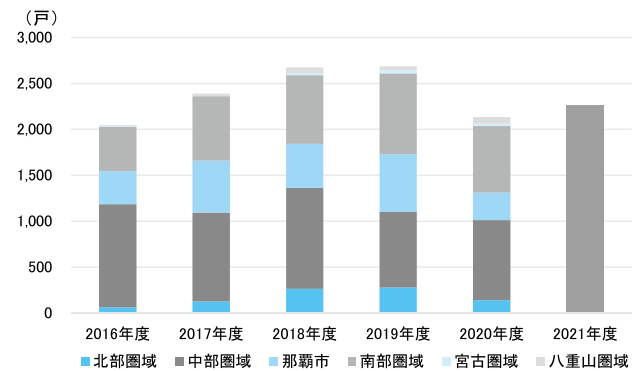
【貸家】圏域別新設住宅着工戸数



【給与住宅】圏域別新設住宅着工戸数



【分譲住宅】圏域別新設住宅着工戸数



※2021年度は町村別が非公開のため県計のみ表示。

住宅着工の動向を利用関係別にみると、貸家の減少が大きく影響していることが分かる。貸家については、5年前の2016年度で11,389戸であったのに対し、2021年度には65.1%減の3,967戸となっている。那覇市や中部圏域の減少幅が大きく、2021年度の市部計は2016年度比で6,094戸の減少、郡部計は1,328戸の減少となっている。

持家については、2020年度に2,329戸と前年度より大きく減少したものの、2021年度には、2,897戸とコロナ禍以前の水準に持ち直している。2021年度については、うるま市（259戸→340戸）や沖縄市（178戸→252戸）をはじめ、多くの市部で前年度を上回っていることが特徴的である。

給与住宅については、全体に占めるウェイトが小さいものの、宮古島市や石垣市などにおいて年度によっては100戸を超える着工の動きがみられる。

分譲住宅については、2019年度まで増加傾向にあったが2020年度に減少、2021年度においても前年度は上回ったものの、コロナ禍以前の水準には至っていない。2021年度については、浦添市（186戸→141戸）や糸満市（128戸→89戸）、豊見城市（83戸→44戸）といった南部圏域の減少がみられた一方で、沖縄市で180戸の増加、名護市で132戸の増加と、地域によって異なった動きがみられる。

郡部については、2021年度において持家のみが前年度を上回っていることが分かる。町村別内訳については前述のとおり非公開となっているため、今回、「オーダーメイド集計」によって得た郡部データから2020年度の動きをみると、給与住宅については恩納村（0戸→94戸）、分譲住宅については八重瀬町（67戸→153戸）や北谷町（114戸→177戸）などで増加しており、2021年度については、これら地域の反動減の可能性も挙げられる。

### 3. 構造別にみる新設住宅着工戸数の動向

構造別		2019年度	2020年度	2021年度
沖縄県計	計	14,243	10,335	9,315
	木造	1,917	1,693	1,779
	鉄骨鉄筋コンクリート造	15	117	44
	鉄筋コンクリート造	11,411	7,658	6,836
	鉄骨造	246	356	214
	コンクリートブロック造	602	500	430
その他	52	11	12	
市部計	計	10,855	7,642	6,764
	木造	1,477	1,116	1,350
	鉄骨鉄筋コンクリート造	13	116	32
	鉄筋コンクリート造	8,724	5,798	4,939
	鉄骨造	187	285	147
	コンクリートブロック造	409	319	289
その他	45	8	7	
那覇市	計	2,880	1,905	
	木造	90	120	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	1	18	
	鉄筋コンクリート造	2,734	1,738	
	鉄骨造	22	8	
	コンクリートブロック造	27	20	
その他	6	1		
宜野湾市	計	716	627	
	木造	57	27	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	3	
	鉄筋コンクリート造	634	522	
	鉄骨造	8	61	
	コンクリートブロック造	14	14	
その他	3	0		
石垣市	計	712	559	
	木造	167	63	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	8	80	
	鉄筋コンクリート造	530	322	
	鉄骨造	5	90	
	コンクリートブロック造	1	3	
その他	1	1		
浦添市	計	759	819	
	木造	15	42	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	731	747	
	鉄骨造	4	4	
	コンクリートブロック造	9	25	
その他	0	1		
名護市	計	965	494	
	木造	133	120	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	15	
	鉄筋コンクリート造	764	290	
	鉄骨造	8	22	
	コンクリートブロック造	59	45	
その他	1	2		
糸満市	計	455	462	
	木造	157	120	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	266	317	
	鉄骨造	6	8	
	コンクリートブロック造	26	17	
その他	0	0		
沖縄市	計	887	753	
	木造	201	121	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	625	584	
	鉄骨造	9	18	
	コンクリートブロック造	52	30	
その他	0	0		
豊見城市	計	676	238	
	木造	79	90	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	557	126	
	鉄骨造	4	9	
	コンクリートブロック造	14	13	
その他	22	0		
うるま市	計	963	681	
	木造	221	150	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	610	397	
	鉄骨造	34	27	
	コンクリートブロック造	98	106	
その他	0	1		
宮古島市	計	1,473	750	
	木造	204	101	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	1	0	
	鉄筋コンクリート造	1,124	600	
	鉄骨造	80	33	
	コンクリートブロック造	52	15	
その他	12	1		
南城市	計	369	354	
	木造	153	182	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	3	0	
	鉄筋コンクリート造	149	155	
	鉄骨造	7	5	
	コンクリートブロック造	57	31	
その他	0	1		

⇒ (色付きセル)  
:「公表とりやめ」となったデータ

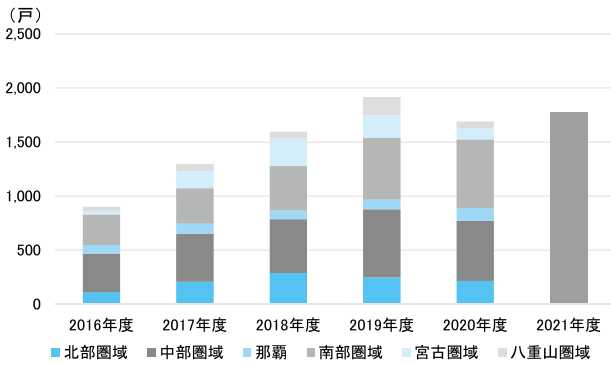
⇒ (色付き二重線セル)  
:「公表とりやめ」となったデータのうち、  
「オーダーメイド集計」によって入手したデータ

※2021年度データの「オーダーメイド集計」提供は、  
今年度(2022)内を予定。詳細な時期は現時点で不明

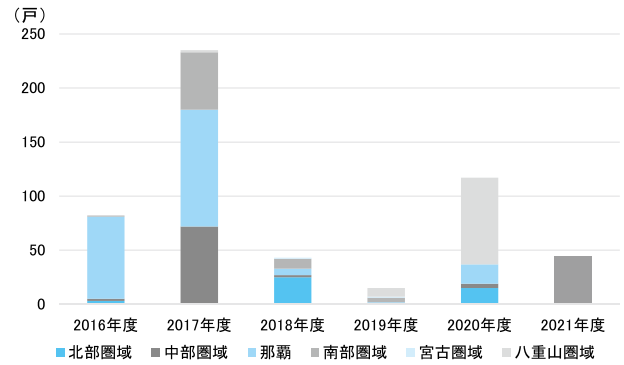
構造別		2019年度	2020年度	2021年度	
郡部計	計	3,388	2,693	2,551	
	木造	440	577	429	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	2	1	12	
	鉄筋コンクリート造	2,687	1,860	1,897	
	鉄骨造	59	71	67	
	コンクリートブロック造	193	181	141	
	その他	7	3	5	
	国頭村	計	9	21	
		木造	2	4	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	3	14	
鉄骨造		1	0		
コンクリートブロック造		3	2		
その他		0	1		
大宜味村		計	10	11	
		木造	3	1	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	4	4	
	鉄骨造	0	1		
	コンクリートブロック造	3	5		
	その他	0	0		
	東村	計	7	23	
		木造	2	1	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	4	21	
鉄骨造		1	0		
コンクリートブロック造		0	1		
その他		0	0		
今帰仁村		計	98	49	
		木造	17	10	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	60	25	
	鉄骨造	11	3		
	コンクリートブロック造	10	11		
	その他	0	0		
	本部町	計	423	83	
		木造	23	18	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	378	45	
鉄骨造		8	1		
コンクリートブロック造		13	19		
その他		1	0		
恩納村		計	282	236	
		木造	48	32	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	222	190	
	鉄骨造	2	3		
	コンクリートブロック造	9	11		
	その他	1	0		
	宜野座村	計	118	77	
		木造	6	7	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	103	60	
鉄骨造		2	2		
コンクリートブロック造		7	8		
その他		0	0		
金武町		計	208	67	
		木造	15	24	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	182	33	
	鉄骨造	2	1		
	コンクリートブロック造	9	9		
	その他	0	0		
	伊江村	計	31	35	
		木造	0	0	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	30	8	
鉄骨造		1	0		
コンクリートブロック造		0	27		
その他		0	0		
読谷村		計	456	312	
		木造	39	70	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	373	221	
	鉄骨造	5	3		
	コンクリートブロック造	39	18		
	その他	0	0		
	嘉手納町	計	92	88	
		木造	6	7	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	80	77	
鉄骨造		1	2		
コンクリートブロック造		5	2		
その他		0	0		
北谷町		計	310	269	
		木造	25	9	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	276	260	
	鉄骨造	3	0		
	コンクリートブロック造	5	0		
	その他	1	0		
	北中城村	計	134	75	
		木造	12	32	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	1	
		鉄筋コンクリート造	113	37	
鉄骨造		2	4		
コンクリートブロック造		7	1		
その他		0	0		
中城村		計	264	247	
		木造	28	37	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
		鉄筋コンクリート造	215	190	
	鉄骨造	3	4		
	コンクリートブロック造	16	16		
	その他	2	0		
	西原町	計	217	247	
		木造	41	101	
		鉄骨鉄筋コンクリート造	1	0	
		鉄筋コンクリート造	149	133	
鉄骨造		8	3		
コンクリートブロック造		18	9		
その他		0	1		

構造別		2019年度	2020年度	2021年度
与那原町	計	112	145	
	木造	32	21	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	74	114	
	鉄骨造	1	3	
	コンクリートブロック造	5	7	
その他	0	0		
南風原町	計	303	249	
	木造	48	36	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	243	201	
	鉄骨造	3	2	
	コンクリートブロック造	9	10	
その他	0	0		
波嘉敷村	計	0	2	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄骨造	0	2	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
座間味村	計	2	6	
	木造	0	1	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	0	3	
	鉄骨造	2	2	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
栗国村	計	0	1	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	0	1	
	鉄骨造	0	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
波名喜村	計	0	0	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄骨造	0	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
南大東村	計	12	2	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	12	2	
	鉄骨造	0	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
北大東村	計	1	11	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	1	0	
	鉄骨造	0	11	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
伊平屋村	計	0	0	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄骨造	0	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
伊是名村	計	3	0	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	3	0	
	鉄骨造	0	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
久米島町	計	25	4	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	24	4	
	鉄骨造	1	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
八重瀬町	計	212	351	
	木造	89	182	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	1	0	
	鉄筋コンクリート造	98	170	
	鉄骨造	2	6	
	コンクリートブロック造	20	13	
その他	2	0		
多良間村	計	1	5	
	木造	0	0	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	1	5	
	鉄骨造	0	0	
	コンクリートブロック造	0	0	
その他	0	0		
竹富町	計	45	60	
	木造	4	4	
	鉄骨鉄筋コンクリート造	0	0	
	鉄筋コンクリート造	26	42	
	鉄骨造	0	1	
	コンクリートブロック造	15	12	
その他	0	1		
与那国町	計	13	17	

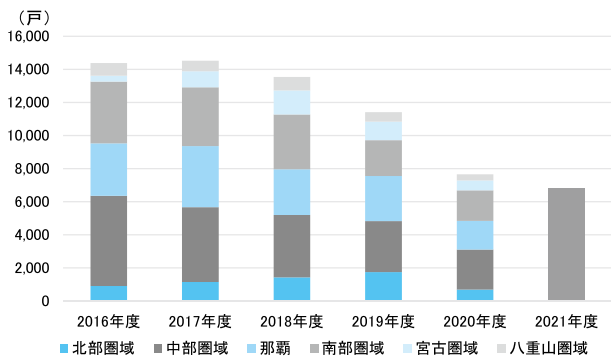
【木造】圏域別新設住宅着工戸数



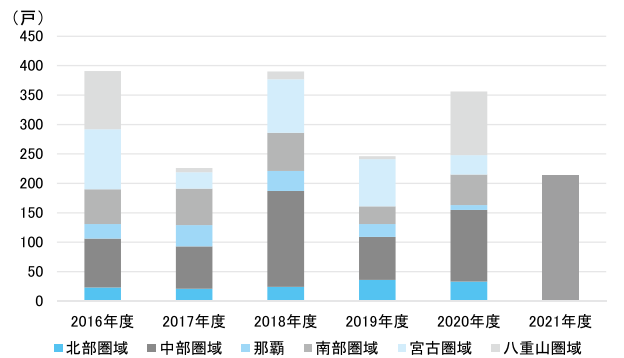
【鉄骨鉄筋コンクリート造】圏域別新設住宅着工戸数



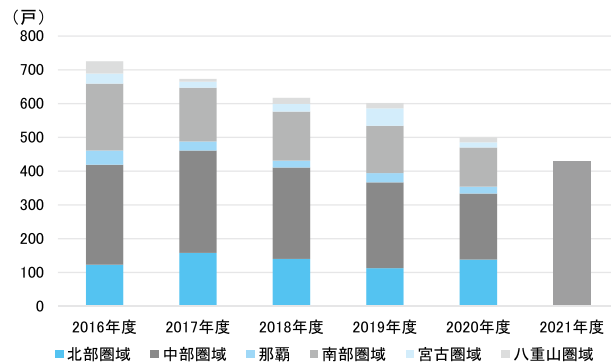
【鉄筋コンクリート造】圏域別新設住宅着工戸数



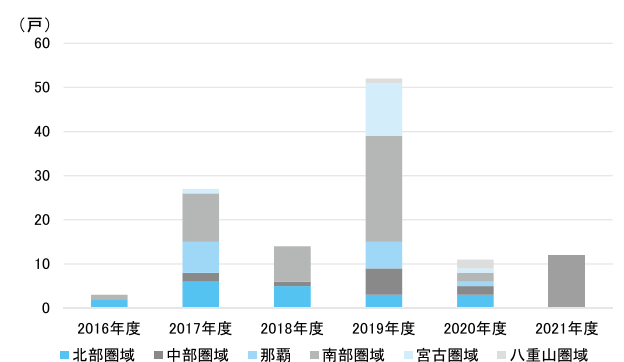
【鉄骨造】圏域別新設住宅着工戸数



【コンクリートブロック造】圏域別新設住宅着工戸数



【その他】圏域別新設住宅着工戸数



※2021年度は市町村別が非公開のため県計のみ表示。

住宅着工の動向を構造別にみても、鉄筋コンクリート造の減少が大きく影響していることが分かる。鉄筋コンクリート造については、5年前の2016年度で14,384戸であったのに対し、2021年度には52.5%減の6,836戸となっている。コンクリートブロック造なども同様に減少傾向にあるが、その一方で木造については、2021年度で前年度比5.1%増の1,779戸となっており、2019年度時点の水準は下回ったものの堅調な動きがみられる。

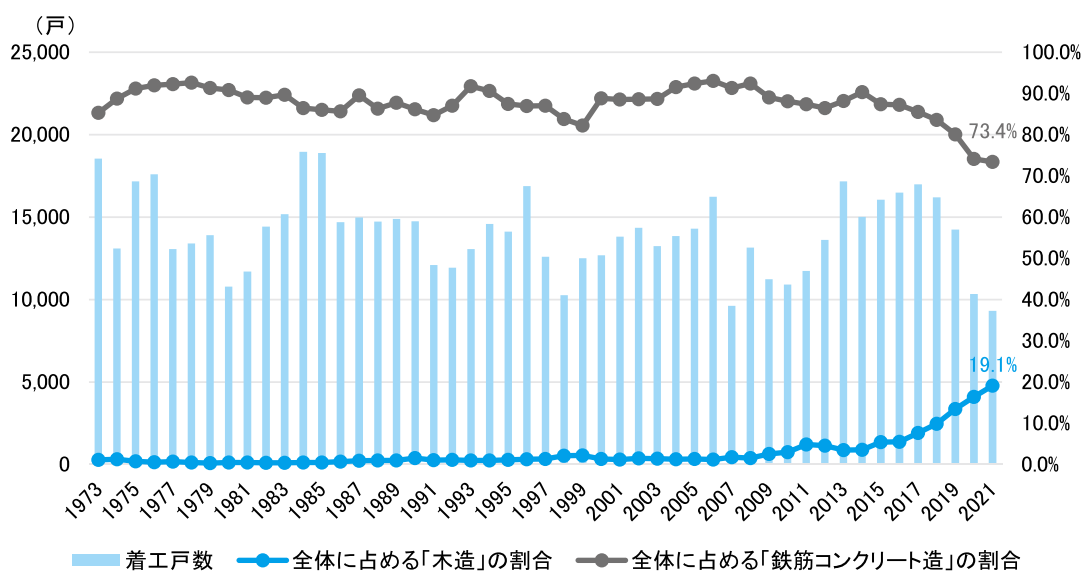
構造別については、市町村別の着工戸数が非公開となっていることから、2021年度については県計のみを表示した。今回データの得られた2020年度の数値をみると、各圏域において減少の動きがみられるのに対し、南部圏域の木造着工が増加している点が特徴的である。

## 4. 木造住宅着工の動向

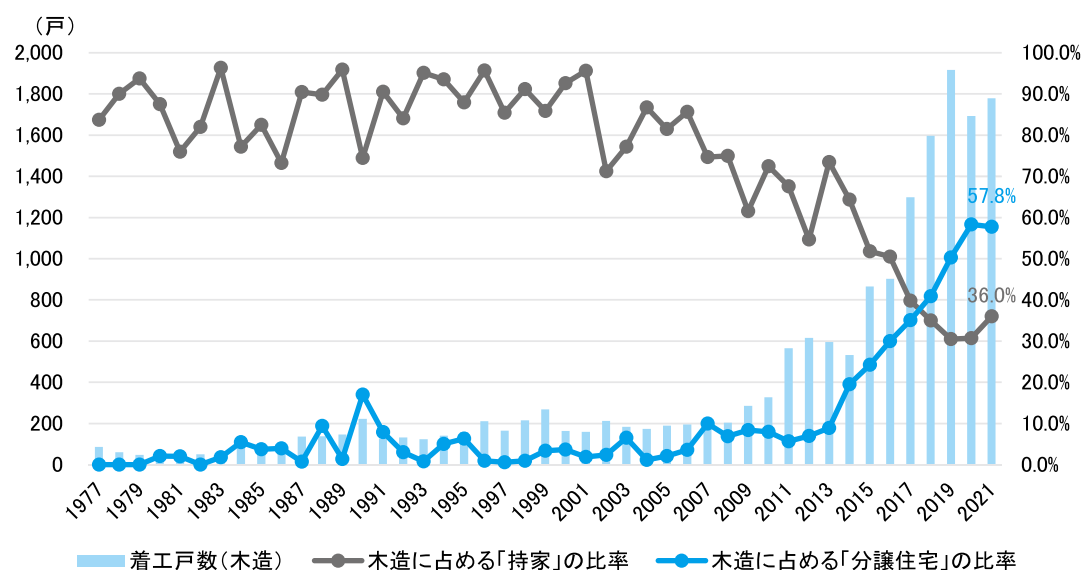
全体として着工戸数が減少傾向にある一方で、堅調な動きがみられる木造住宅についてみると、2021年度の全体に占める割合は19.1%と、統計開始以来最も高い水準となっている。また、これまで木造の多くは持家に採用されていたが、近年は木造の分譲住宅が増加しており、木造に占める割合は2018年時点で分譲住宅が持家を上回っている状況にあることが分かる。

今回、データが得られた2020年度以前の直近5年間の着工戸数を市町村別にみると、うるま市が最も多く868戸、次いで宮古島市が751戸、沖縄市が630戸となっている。うるま市や沖縄市などでは、木造の多くが持家や分譲住宅に採用されているが、宮古島市については木造に占める貸家着工が641戸（木造全体の約85%）となっており他の市町村とは異なった傾向がみられる。

【合計】着工戸数及び構造別比の推移（年度）



【木造】着工戸数及び構造別比の推移（年度）



※1987年以前は「沖縄の建築行政」（沖縄県土木建築部）を基に作成

## 5. 総括

本レポートについては、「建築着工統計調査」（国土交通省）において“市区町村別の集計結果の公表とりやめ”となったことを受け、統計データの二次利用制度を活用することにより当該データの補完を試みるとともに、これにより得られたデータを含めて直近の住宅着工の動向を概観したものである。

本分析における主なファインディングスは以下のとおりである。

- 沖縄県内の新設住宅着工戸数は2017年度をピークに4年連続の減少となっており、2021年度は9,315戸と、統計開始以来最も低い水準となっている。
- 直近5年の減少傾向については、市部における貸家の減少が大きく影響している。
- 構造別では、鉄筋コンクリート造の減少が大きく影響している
- 全体として着工戸数が減少傾向にある一方で、木造住宅については堅調な動きがみられる。
- 2021年度の全体に占める木造の割合は19.1%と、統計開始以来最も高い水準となっており、近年は木造の分譲住宅が増加傾向にある。
- 今回、「オーダーメイド集計」によって得られた2020年度のデータからは、郡部における住宅着工の動向ならびに市町村ごとに構造別の動向を確認することが可能となった。

### (おわりに)

本レポートに関連する基礎データ（2020年度）ならびに各市町村の利用関係別時系列データを『(株)おきぎん経済研究所』のホームページで掲載しております。ご興味のある方はぜひご覧ください。

- リリース版（参考データ含む）

[https://www.okigin-ei.co.jp/file/other/report\\_2022.05.25\\_AnalysisOfTrendsInHousingStartsInOkinawaPrefecture.pdf](https://www.okigin-ei.co.jp/file/other/report_2022.05.25_AnalysisOfTrendsInHousingStartsInOkinawaPrefecture.pdf)

## 「リスキリング」

社会変化見据え 新たなスキル

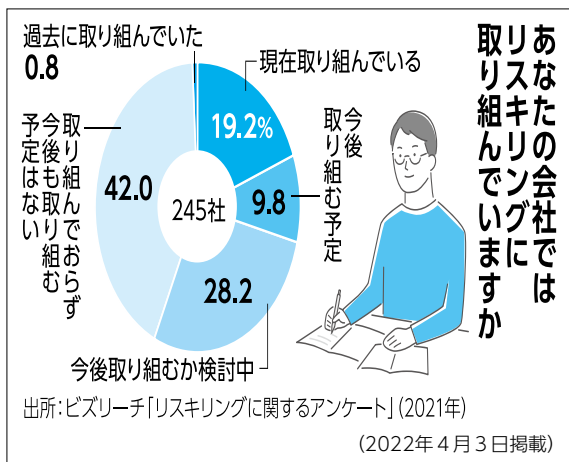
コロナ禍により、社会には多くの変化がありました。働き方もその一つです。企業によるテレワーク導入や、DX推進が加速しました。その中で、業務を行う上で新たなタイプの人材が必要になった企業や、新たなスキルが必要になったという従業員の方もいらっしゃるかと思われます。

「リスキリング」という言葉をご存じでしょうか。経済産業省は「新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する／させること」と定義しており、特に今後必要性が高まるであろうDX人材の確保の場面で多く用いられています。

これまでのOJTやリカレント教育との大きな違いは従業員が「今は社内にはない（やる人がいない）」業務を習得する点にあります。また、定義内で「する／させる」という表現がなされているように、従業員個人が社内での新たな業務対応や転職のために主体的にリスキリングを行うケースと、企業が従業員に新たな業務を任せるためにリスキリングをさせるケースがあります。

しかし、日本ではリスキリングをさせている企業は少ないのが現状です。人材サービス業のビズリーチが企業向けに行ったアンケートでは、従業員にリスキリングをさせている企業は全体の2割未満です。今後はDX化をはじめとする企業主導のリスキリングの進展に期待すると同時に、個々の従業員が自身の今後のキャリアと社会の変化を見据え、新たなスキル獲得のためのリスキリングを主体的に進めることにも期待したいです。

(おきぎん経済研究所 研究員 小嶺 貴史)



## 家計の消費性向の推移

コロナ禍で消費に回せず

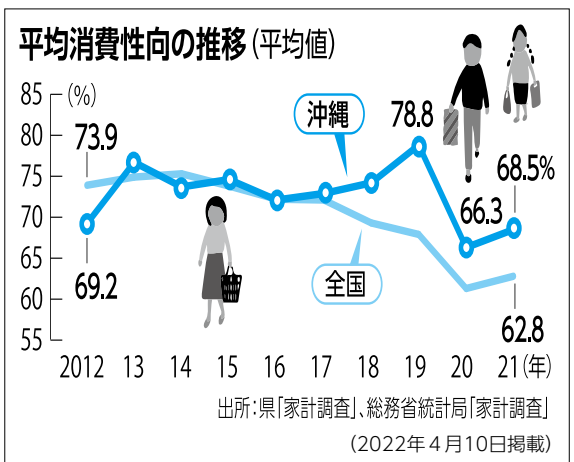
沖縄県が発表した家計調査によると、2021年平均の2人以上の世帯のうち勤労者世帯における平均消費性向は68.5%となっています。これは簡単に言えば、家計の収入のうち68.5%は消費に回り、残りは貯蓄等に回っているということになります。

本数値は世帯の消費意欲を示す指標として用いられますが、直近の推移では19年に78.8%でしたが、20年には66.3%と10%以上低下したことが分かります。この傾向は全国も同様で、20年の全国値は61.3%で前年比6.6%減となっています。

平均消費性向については、実収入のうちの可処分所得（社会保険料や税金などを引いたいわゆる手取り収入）を分母としており、沖縄におけるこの可処分所得は19年で31万8千円、20年は34万1千円、21年には37万円と、増加傾向にあります。一方、分子となる消費支出額ですが、19年で25万1千円、20年は22万6千円、21年には25万3千円となっており、20年は低下したものの21年は19年と同程度の水準となっています。

近年の家計の特徴として、沖縄県ならびに総務省統計局では、新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛、営業自粛などによる消費の減少や、特別定額給付金や子育て世帯への臨時特別給付金の支給などにより所得が増加していることを挙げています。これらを踏まえると平均消費性向の低下からは、給付金等により所得が増えた一方で先行きの不透明感などから増加分を消費に回すことができていない現状が推察されます。

(おきぎん経済研究所 研究員 與那覇 徹也)



## ホテル客室単価の推移 質重視や富裕層向けで回復

沖縄県のリーディング産業である観光業は、コロナ禍が長期化しており宿泊施設の客室稼働率が大きく低下しています。一方、弊社にて調査しているシティホテルとリゾートホテルの客室単価（平均値）は図のように推移しています。特徴としては、夏場の旅行シーズンに客室単価が上昇しています。2022年2月においては、オミクロン株の感染拡大とまん延防止等重点措置適用による需要減少で、客室単価も低下しています。

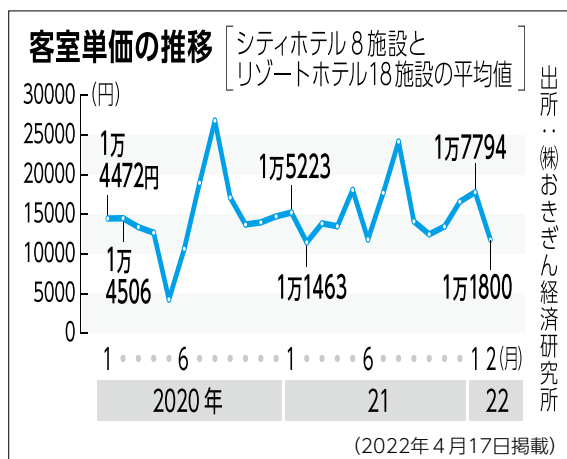
全体としては、22年1月の客室単価が2年前（コロナ拡大前）を上回るなど、回復基調にあります。客室単価が回復基調にある要因として、2点考えられます。

1点目は、「量から質への転換」です。客室の改装やサービス強化などにより付加価値を上げ、質を重視する動きが見られます。ホテル事業は固定費が大きく変動費が小さい特徴があり、値下げ効果が出やすい側面があります。これは、宿泊に特化するほど表れます。しかし価格競争は限界があり、質を重視する取り組みも必要です。

2点目は、富裕層向けホテルの影響（相乗効果）です。客室単価が水準以上の県外・海外資本のホテルが進出しています。牽引（けんいん）されるように、質の向上と並行し適切な価格設定に取り組んでいるように見られます。

コロナの影響が長期化していますが観光客はホテルや観光地だけの利用にとどまりません。交通機関を利用し、飲食し、県産品のお土産を購入するなど多くの産業に寄与するため一刻も早い観光産業の回復が望まれます。

（おきぎん経済研究所 研究員 新垣 富宏）



## 調査のクロスで動向把握 ニーズ発掘や支援強化のヒントに

このところ企業を取り巻く環境は、ヒト・モノの往来等を含めて持ち直しの兆しがみられたものの、足下で資源価格等の高止まりが継続するなど、逆風が吹き始めています。

企業動向については、おきぎん企業動向調査による景況感の把握に加え、定例的なテーマや旬なトピックスを盛り込んだスポット調査を実施しています。直近のテーマとして2021年7～9月期に「IT化に向けた取組」、10～12月期に「人材確保の取組」、22年1～3月に「賃金動向に関する取組」等があり、双方を横断して集計することで新たな視点での企業動向が整理できます。

例えば「IT化の取組×業況感」でクロスさせると、産業全体の業況DIがマイナス8.5に対し、IT化への意識・関心の高い企業群（ITを活用した業務効率化・生産性向上に取り組む）ではDIがプラス1.9を示しています。また「人材確保」では全体がプラス22.9に対し、人材不足する企業群（事業に必要な人材が不足）がプラス37.6、「賃金動向」では全体がプラス1.6に対し、賃金引き上げを予定する企業群でプラス31.6となっています。

総じて、厳しい環境下でも経済活動を活発化させる企業群の存在と相対的な業況感の良さがみられます。今回は試行的にデータを横断させたため双方の因果関係等を含む詳細な結論に至っていませんが、今後は企業行動を個別に深掘りしながら他の情報等も掛け合わせることで、企業ニーズの発掘や支援強化に向けたヒントが得られるはずで

（おきぎん経済研究所 研究員 當銘 栄一）

企業動向調査	業況DI (産業全体)	スポット調査	業況DI (抽出された企業群)
	回答企業数(社)		回答企業数(社)
2021年7-9月期	▲8.5 586	IT活用(による業務効率化・生産性向上)に取り組んでいる	1.9 215
21年10-12月期	22.9 571	(現在事業に必要な)人材が不足している	37.6 101
22年1-3月期	1.6 574	(今年度に)賃金の引き上げを行う予定	31.6 57

注：左はおきぎん企業動向調査による調査結果、右はスポット調査から経済活動(企業行動等)を活発化させた企業群を抽出したもの  
(2022年4月24日掲載)